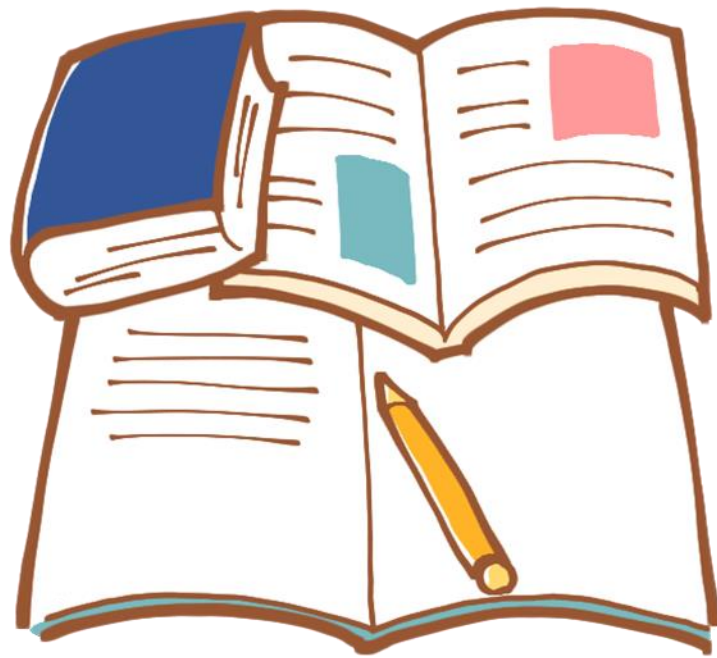


福岡県立鞍手高等学校

授業改善ガイドライン



令和元年 10月 初版
令和2年 3月 改訂

【目次】

本校での授業改善について（はじめに）	P 1
授業開発アンケートの作成手順	P 2
授業開発アンケート実施後の処理	P 3
授業開発アンケートの効果	P 4～5
授業開発アンケート後の分析方法	P 6～8
授業開発アンケートに関するQ&A	P 9～10
過去の授業開発アンケートの実施結果	P 11～18

1. はじめに

これから入試の多様化に向けて、授業で育成する資質・能力はより複雑になっているようです。授業で学力をつけることは当然であるが、さらに踏み込んだ能力を育成するために、絶え間ない授業改善が今後ますます必要になっています。そのために本校では主に2種類の方法で授業改善に取り組んでいます。ただ、この2つ方法の手法は違えど目的は「鞍手高校の授業の活性化」です。先生方がさらに良い授業改善の手法をお持ちでしたら、そちらを是非実施してください。教科や科目を超えて多くの授業での取組に関する話題が飛び交う職員室が来る日を目指して、さらなる授業の活性化をしていきます。

方法① 研究授業による授業改善

最もオーソドックスな授業改善の手法だと思います。指導案の作成の有無は授業者の先生にお任せします。研究授業の際には可能であれば、授業参観を経て教科会議等で研究協議を行ってください。特に作成するもの等の様式はありません。

方法② 授業開発アンケートによる授業改善



現在鞍手高校独自の取組みとして「授業開発アンケート」を用いた授業改善を行っています。少し分かりにくい点もありますので、以下の「2. 授業開発アンケートについて」にそのねらいや仕組みを記述しています。そちらを読まれて実施をお願いします。

主にこの2つの取組、もしくは先生方独自の取組で構いませんので、可能であれば毎年最低一回は何かしらの方法を選択して、授業改善の実施をお願いします。


2. 授業開発アンケートについて

2-1. 実施方法

まずアンケート自体を作成していただく必要があります。年度内の研修・図書課「授業開発アンケート」のフォルダ内にアンケートの原本がありますので、そちらをコピーしてお使いください。

名前	更新日時	種類	サイズ
 授業開発アンケート実施要項.docx	2019/06/05 13:10	Microsoft Word ...	19 KB
 第1回授業開発アンケート用紙(各自コピーして使用).xlsx	2019/06/05 11:22	Microsoft Excel ...	432 KB

アンケートの作成後は授業を行い、その取組を行う最後の授業にて、生徒に対してアンケートを実施してください。（1年間通した取組であれば年度の最後の授業で実施、1回だけの単発の取組の場合はその授業の最後か、次の授業中に実施します。）その後は、生徒の回答結果を集約し、その結果を年度内の研修・図書課「入力シート」のフォルダにシートがありますので、入力してください。

名前	更新日時	種類	サイズ
 ⇒入力はこちら：授業開発アンケート入力シート(各自入力後上書き保存).xlsx	2019/10/07 14:13	Microsoft Excel ...	22 KB

2-2. 授業開発アンケートの作成手順

アンケートを作成する際は大きく2つの項目について入力してください。

①育成能力とその手だての入力

「育成目的」はプルダウンで選択できるようになっています。そこから選択して入力してください。

選択した能力を育成するための手立てを「手立て」の欄に入力してください。

※資質・能力を授業開発の目的とした際、教科の目的や目標に合わない場合は「育成目的」に手入力で教科の目的や目標を記入していただいて構いません。

②育成目的を生徒に分かりやすく言い換えたものを入力

Aの欄に授業での育成目標を生徒に対してわかりやすく言い換えたものを入力してください。生徒がアンケートに回答する際は、ここに入力した内容を見て、授業における生徒自身の【達成度】を自己評価することになります。そのため質問形式で入力した方が分かりやすくなります。

授業開発アンケート用紙	
育成目的	<input type="text"/>
手だて	<input type="text"/>
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding-right: 10px;"> 未来の 創り手となる ために 必要な 資質・能力 </div> <div style="flex: 1;"> </div> <div style="flex: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> 基礎知識 <input type="checkbox"/> 言語スキル <input type="checkbox"/> 数量スキル <input type="checkbox"/> 情報処理スキル <input type="checkbox"/> 実技スキル <input type="checkbox"/> 課題発見能力 <input type="checkbox"/> 課題解決能力 <input type="checkbox"/> 論理的思考力 <input type="checkbox"/> 総合的表現力 <input type="checkbox"/> 感受性 <input type="checkbox"/> 共感性 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 積極性 <input type="checkbox"/> </div> </div>	
A	育成目的 <input type="text"/> → ④できた ③ややできた ②あまりできなかった ①できなかった
B	授業開発の手だては有効でしたか ④大変有効 ③有効 ②あまり有効ではない ①有効ではない
C	Bの間においてそのように回答した理由があれば書いてください。 <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>
年 組 番 氏 名	

2-3. 授業開発アンケートの実施方法

授業開発アンケートの作成後、生徒にそのアンケートを実施します。実施するタイミングはその授業改善の手立ての最後の授業で行ってください。例えば、手立てを1年間通して行う場合は、年度末の授業で実施します。手立てを1回の授業のみで行う場合は、その授業の最後に、もしくは次の授業の最初に行ってください。長期間に及ぶ手立ての場合は、事前に生徒へこのようなアンケート行うと予告しておいた方が良いでしょう。生徒に以下の指示をお願いします。

「・A欄にこの授業での取組の達成度を記載しています。自分自身の授業の達成度を4段階評価してください。」

「・B欄でこの授業での取組の有効度を4段階評価してください。」

「・C欄には有効度をそのように評価した理由等あれば記載してください。」

2-4. 授業開発アンケートの実施後の処理

授業開発アンケートを実施した後は、アンケート結果の集計と入力をしてください。アンケートの集約箇所は以下の2点です。

①生徒の授業の到達度について

A欄では、先生方が育成目標を生徒に対してわかりやすく言い換えた内容をもとに、生徒自身が授業の到達度を自己評価しています。

④できた → 4点

③ややできた → 3点

②あまりできなかった → 2点

①できなかった → 1点

として集計し、平均点を計算して下さい。

A	育成目的		
	→	④できた	③ややできた ②あまりできなかった ①できなかった

B	授業開発の手立ては有効でしたか
	④大変有効 ③有効 ②あまり有効ではない ①有効ではない

C Bの間においてそのように回答した理由があれば書いてください。

年 組 番 氏名

②授業の手立てに対する有効度について

B欄では、先生方の行った手立ての有効度を生徒が評価しています。到達度と同様に

④大変有効 → 4点、③有効 → 3点、②あまり有効ではない → 2点、①有効ではない → 1点として集計し、平均点を計算して下さい。

※C欄の記述は先生方で確認されるだけで構いません。集計や入力の必要はありません。

集計後は結果を入力して下さい。年度内の研修・図書課「入力シート」のフォルダにシートが入っています。そのシートに、以下の項目を入力して下さい。

- ・実施月、実施日（アンケートを実施した日を入力）
- ・育成領域、能力（プルダウンになっていますので、選択して下さい。）

※授業の育成目的を資質・能力ではなく、教科の目標や目的を設定した場合は手入力して下さい。

- ・手立て（授業開発アンケートで「手立て」の欄に入力したものをそのまま入力して下さい。）
- ・Aの質問項目（授業開発アンケートのA欄に入力した内容をそのまま入力して下さい。）
- ・A【平均値】（生徒が自己評価した授業での『達成度』の平均値を入力して下さい。）
- ・B【平均値】（生徒が評価した授業の手立ての『有効度』の平均値を入力して下さい。）

（参考）入力シートの欄

実施月	実施日	育成目的 【選択する】	能力 【選択する】	手立て	Aの質問項目	A 【平均値】	B 【平均値】

2-5. 授業開発アンケートの効果

①授業改善の目的を『資質・能力の育成』に統一することで、全ての手立てを全職員で共有できる。

各教科・科目の目的や目標は根っこで全て生徒の資質・能力の育成という観点でつながっていると考えています。『たくまשיき7つの能力』はどの教科のどの取組でも、一応全てつながるようにつくられています。そのため、これまでの授業改善の手法は蓄積され、教科・科目をこえて成果を共有することができます。テキストの後方に過去の実施例をつけていますので、是非参考にしてください。また、授業改善の有効度を数値化していますので、有効度の高い取組や参考にしたい取組がありましたら、是非授業実施者に話を聞いてみてください。

②授業開発アンケートを作成することで、授業内容と目的の整合性を向上させることができる。

授業開発アンケートを作成された際に、入力した内容を一度確認してください。確認するポイントとしては

1. 授業で育成する資質・能力と講じている手立ては本当につながっているのか？

※これが繋がっていないければ、そもそも授業改善となっていないことになります。

2. 生徒に授業での到達度を問う質問（授業開発アンケートのA欄に記入した内容）は本当にその資質・能力の自己評価をさせることができるのか？

※これが繋がっていないければ、授業の目的と先生方が生徒に求めるものがずれていることになります。

3. 各教科における単元と育成する資質・能力から、教科やその単元が生徒に求めている資質・能力とは何かを改めて確認する。

※教科・科目はもちろん学力を身につけさせることはもちろんですが、授業を通して様々な能力や態度を培っていくことが目標とされています（各教科の学習指導要領を参照してください）。もちろん教科の特性により育成しやすい、または育成しにくい能力はあるはずですが、先生方の教科は3年間を通して生徒に学力はもちろん、あとは何を身につけさせるべきなのかを改めて考えてください。学力だけを身につけさせればよい教科なんてありません。

③授業開発アンケートを実施し、生徒の回答を集計することで授業者の授業に対する自己評価力を向上させることができる。

授業開発アンケートで生徒が評価する項目は【授業での生徒自身の到達度】、【授業改善の手立てに対する有効度】の2つです。これらの平均値を確認して、実施した授業の効果を確認してください。次に効果を確かめる視点の例を挙げています。

1. 【授業改善の手立てに対する有効度】の数値について

有効度の数値が低ければ、当然その取組は生徒にとって理解が難しいものとなっているはずです。有効度の低さの原因を検討することで、次にどこを改善すべきかが見えてくるはずです。ちなみに平均が3点未満の取組は、生徒たちの感覚として平均的に有効ではない取組とお考えください。

2. 【授業での生徒自身の達成度】の数値について

いくら授業改善の有効度を高めても、その取組を通して生徒たちが目的を達成できていなければ、その効果は半減してしまいます。生徒に求める目標が高すぎたのか、またはそもそも生徒が理解できていないのか、原因を検討することで、次にどこを改善すべきかが見えてくるはずです。ちなみに平均が3点未満の取組は、生徒たちの感覚として平均的に理解できていない授業だとお考えください。

3. 【授業改善の手立てに対する有効度】の数値と【授業での生徒自身の達成度】の数値とのバランス

それぞれの数値ごとの分析と合わせて、バランス（数値の差）も是非確認してください。以下に極端な例として、2つのバランスの悪いパターンを示します。

（例1）【授業での生徒自身の達成度】は高いが、【授業改善の手立てに対する有効度】は低い取組

先生方が求める目的に対して達成できている生徒がほとんどであるが、その授業改善の取組自体はあまり効果がないと感じている授業です。これは、授業改善の手法とその授業での目的がマッチしていないことが大きな原因です。もう一度、その単元とその手法、そして生徒にもとめる目標のつながりを検討してください。

（例2）【授業改善の手立てに対する有効度】は高いが、【授業での生徒自身の達成度】が低い取組

授業改善の手立てを懲りすぎて、生徒を置いて行ってしまっている可能性がとても高い取組です。このパターンで多い取組は、生徒が学ぶ、考える過程に対して何か新しい方法を取り入れた授業改善に多いようです。生徒たちはその新しい学び方を理解することに時間がかかってしまい、その効果を実感するには至らなかったケースが多いように感じます。実際の例を以下に載せておきます。

2年生物理の授業で行った『論理的思考力』を育成するための授業改善について

手立てが「分野ごとに思考の過程を文字におこして表現し、それを他と比較することで、論理的に考える力を育成する」というもの。到達度の尺度が「物理現象に対してどのように考えていくのか順序立てて思考することができる」であった。授業開発アンケートの結果は達成度 2.4、有効度 3.3 であった。

これは、手立てが先行し過ぎて、生徒たちがついて来れていないことを表している。実際の実施時間が2時間で生徒たちが十分に思考をまとめる時間が取れていないことが原因であると考えた。そのため次年度で同じ取組を毎回の単元で実施（実施時間は合計10時間）すると、2年目の授業開発アンケートの結果は達成度 3.3、有効度 3.5 であった。

2-6. 授業開発アンケート後の分析方法

※以下 **-----** は授業開発アンケートを3年間実施した結果の分析です。

授業開発アンケートにより、「到達度」と「有効度」を数値化している。「到達度」とは、生徒に対して授業者がその授業での目標を示し、その到達度を4段階で生徒が自己評価したものである。「有効度」とは、授業者が行った授業改善の手立ての有効度を生徒が4段階で評価したものである。その数値は1が最低で4に近づくにつれ到達度、有効度が高くなる。

まず「到達度」が高い取組と低い取組について、その特徴を分析した。

1. 到達度が高い取組と低い取組の特徴

生徒が自己評価した「到達度」が高かった授業改善において、実際に授業者が生徒に示した授業における目的を以下に示す。

- 作品製作の手順を理解して、自己の課題を認識することができたか。
- 環境エネルギー問題への危機意識をもつとともに、今後英語表現能力を身に付けたいと思ったか。
- 解説を準備することで理解が深まったか。
- 自己や社会に関する健康課題に関心をもつことができたか。
- 民意は多様であること、ゆえに民主主義には時間がかかるということを理解できたか。
- 助動詞の働きや識別等への理解を深めることができたか。
- 環境・エネルギー問題への危機意識をもったか。
- 身近な健康課題について課題を発見することができたか。
- グループで協力しながら作業に見通しを持ち、正確な作業につなげることができたか。
- 鎌倉幕府の成り立ちを幕府側・朝廷側両方からの立場で再確認できたか。

これを見ると授業の目標を達成できたかどうか、生徒の主観による自己評価のみで判断するものばかりであった。授業で生徒に求める目標が低すぎるということである。

次に生徒が自己評価した「到達度」が低かった授業改善において、実際に授業者が生徒に示した授業における目的を以下に示す。

- 物理現象に対してどのように考えていくのか順序だてて思考することができたか。
- 文章内容を分かりやすく要約し、他者に説明できたか。
- 日本語訳なしで、英文の内容を理解することができたか。
- 長文読解において学んだ文法構文を実際に日常的な英会話の中で使うことはできたか。
- 生徒の解説を聞いて、その解説が正しいか間違っているか判断することができたか。
- ペアワーク等の活動の際、相手の意見に質問したり、自分の意見を進んで伝えることはできたか。
- 相手の意見をよく聴いた上で、自分の意見を論理的に相手に伝えることができたか。
- 本文の内容に関する英問に英答することができる。
- 必要な文字数で必要な語を用いて記述できたか。
- 本の内容を分かり易く伝え、皆の興味・関心を引き出せたか。

これを見ると授業の目的を達成できたかどうか、生徒の主観による自己評価だけではなく、別の指標を用意している取組や、方法を限定して負荷を与えている取組ばかりであった。授業で生徒に求める目標を高く設定している取組である。

これらから「到達度」の数値が高い取組が、生徒たちにとって達成感を感じさせる充実した授業に直結せず、むしろ高い目標を課している「到達度」の低い取組の方が、これから授業改善を進める際の授業の目的にふさわしいと考える。「到達度」は低すぎず、高すぎないものこそ授業改善に必要であるということである。

2. 本校の授業改善の分類

「到達度」だけでは授業改善の生徒への効果をみることはできないため、「有効度」も合わせて授業改善の効果を吟味しなければならない。「有効度」は、授業改善の手立ての有効度を生徒が4段階で評価したものであり、3を超えないものは有効ではないと読み取ることができる。「到達度」と「有効度」の差をとることで、本校の授業改善の特徴を4つに分類した。以下「有効度」から「到達度」の値を引いた差の値を【授業改善度】とする。

$$\text{【授業改善度】} = (\text{『有効度』の平均値}) - (\text{「到達度」の平均値})$$

①『有効度』が3以上（生徒が有効であると認めた授業改善）であり、【授業改善度】が正の値をとる授業改善

これは生徒が授業の手立ては有効であると認めたが、その有効性に比べると生徒が授業の目標を達成できていないと感じた授業である。授業で生徒に求める目標は【授業改善度】は正で大きくなるほど、その授業の有効度が高いとみることができる。手立てを繰り返し実施することで、より効果的な授業改善になると推測される。

②『有効度』が3以上（生徒が有効であると認めた授業改善）であり、【授業改善度】が0である授業改善

これは生徒が授業の目標を達成するにあたり、適切な授業改善の手立てであったものである。ただし、授業改善を目的としているこの事業では、「到達度」の値が『有効度』より小さい方が、今後も推進していく可能性を含んだ手立てとなるため、生徒に課す授業の目標をさらに引き上げる必要がある。

③『有効度』が3以上（生徒が有効であると認めた授業改善）であり、【授業改善度】が負の値をとる授業改善

これは生徒が授業の目標を達成し、かつ授業の手立ても有効であると認めたものである。ただし、【授業改善度】が負の値であるということは、「到達度」よりも『有効度』が低いことであるため、生徒に課している授業の目標設定が単純すぎる（もしくは分かりにくい）、または授業の目標を達成するための手立てにはあまり合っていないことが原因と推測される。

④『有効度』が3未満の授業改善

生徒が授業の手立てとして有効ではないと評価したものであるため、授業の手立て自体を改善すべき取組である。

3. 本校での授業改善の評価

平成29年度から令和元年度1月までに、本校で実施された授業改善は全部で102あり、イの分類に従って分けると以下ようになった。

①『有効度』が3以上であり、【授業改善度】が正の値をとる授業改善	48 (47.5%)
②『有効度』が3以上であり、【授業改善度】が0である授業改善	21 (20.8%)
③『有効度』が3以上であり、【授業改善度】が負の値をとる授業改善	29 (28.7%)
④『有効度』が3未満の授業改善	3 (3%)

また平成29年度、平成30年度、令和元年を同じように分類すると以下ようになった。

分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度
①『有効度』が3以上であり、【授業改善度】が正の値をとる授業改善	40.7%	57.8%	37.9%
②『有効度』が3以上であり、【授業改善度】が0である授業改善	22.2%	26.7%	10.3%
③『有効度』が3以上であり、【授業改善度】が負の値をとる授業改善	29.6%	13.3%	51.7%
④『有効度』が3よりも小さい授業改善	7.4%	2.2%	0%

このことから、本校で行われている資質・能力の育成に特化した授業改善は、生徒にとって有効度が低い取組が減り、有効度が高い取組として実施されているが、生徒に対して授業で求める目標が少し単純になってきているようである。授業での目標を設定し直し、それに対応するために手立てについても向上させていかなければならない。また、このように本校独自の分類ではあるが、授業改善の手法に関して特徴別に分けることで、具体的な今後の改善個所が明確になり、校内の授業改善の活性化につながると考える。

4. 分類による授業改善推進の具体例

分類①『有効度』が3以上であり、【授業改善度】が正の値をとる授業改善』についての分析結果を以下に示す。

平成29年度（SSH第Ⅱ期第1年次）に物理の授業で行った授業改善の手立てについて授業開発アンケートの結果を分析したところ、『有効度』が3.3、「到達度」が2.4で、【授業改善度】は0.9であった。これは、平成29年度実施した中では最大の【授業改善度】を示したものであり、分類①に該当する。そのため、平成30年度、令和元年度と手立てを実施する回数を増やし、その効果の変化を分析した。結果は以下の通りである。

項目	平成29年度実施 (年2回実施)	平成30年度実施 (年5回実施)	令和元年度実施 (毎回の単元で実施)
『有効度』	3.3	3.5	3.5
「到達度」	2.4	3.3	3.4
【授業改善度】	0.9	0.2	0.1

【授業改善度】が正に大きい値をとる手立ては、継続的に改善を加えて実施することで、生徒の「到達度」を大きく向上させ、効果的な改善を行うことができる。

2-7. 授業開発アンケートに関するQ&A

職員アンケートで出てきたご意見やご質問はもちろん、今までの質問で上がった内容をまとめています。ここに出ていない質問がありましたら、直接授業改善の担当者へ質問をしてください。

Q1 授業開発アンケートの実施方法とその効果が良く分からない

A. この冊子（授業改善ガイドライン）のP2に「授業開発アンケートの作成手順」、P3に「授業開発アンケートの実施後の処理」、P4・5に「授業改善アンケートの効果」を載せていますので、そちらを確認してください。

Q2 授業開発アンケートより、オーソドックスな研究授業形式の方が授業改善がしやすいんだけど

A. 授業開発アンケートの目的は「鞍手高校の授業改善の活性化」です。そのため、授業改善が活性化するのであれば手法は何でも構いません。先生方の一番やりやすいやり方で実施をお願いします。

Q3 教科・科目における目的と、授業開発アンケートで育成する資質・能力とがつかない（もしくはつながりにくい）。

A. 授業開発アンケートで選択する資質・能力（『たくましく7つの能力』といいます）は、どの教科・科目とも繋がるように定義しているつもりですが、つながりにくい場合は、「育成目的」を資質・能力ではなく、教科・科目の目的に変えて実施してください。（そのままシートに入力してください。）また、その場合、授業開発アンケートの形式ではやりにくいのであれば、Q2の回答のように、やりやすい方法で実施してください。

Q4 生徒たちの受験学力をつけたい等の先生方の思いとのマッチングを図ることも必要では

A. 一番理想的な授業改善は、受験学力もつくし、その中で生徒が社会に出ても活用できる資質・能力を育成できるものだと思います。（私は毎回それを考えているつもりです。）同時には難しいし、けど受験が最優先やろ！という先生は、是非とも「育成目的」を【基礎知識】または、知識等を活用する【幅広い基礎力】として授業開発アンケートを実施してください。効果的な受験学力を身につけさせる手法開発もとても大切な授業改善です。

Q5 授業は1時間で完結するものではないので、1時間の取組をアンケートで評価しても得るものが少ないのでは。また、継続的な取組を評価するという方向にシフトした方が良いのでは。

A. 授業開発アンケートは必ずその日の授業1時間で実施するものではありません。授業改善の取組が1年間かけて行うものでしたら、年度末最後の授業でアンケートをしてください。その取組が2学期を通して行うものでしたら、2学期最後の授業で実施をしてください。もちろん1時間のみの取組

であればその授業の中で、もしくは次の授業の最初に実施してください。説明が不足しており、わかりづらく申し訳ございません。

Q 6 授業カットや学校行事、学びの基礎診断の平日実施等により授業改善を行う時間や余裕がない

A. 「指導案を作成し、研究授業を行い、授業参観に行き、研究協議を行う。また生徒に授業に関するアンケートを行う。」これらの要素をまとめて一つにしたものが授業開発アンケートです。アンケートを作成することで授業内容と手立てのつながりを確認し（指導案的要素）、授業改善の有効度を掲載した手立て一覧を全職員に配布し（授業参観の要素）、有効度の高い取組や気になる手立てについて、時間がある時に話す（研究協議の要素）。そして、生徒がその授業での到達度と手立ての有効度を評価する（授業に関する生徒アンケートの要素）ことで、時間的に効率よく授業改善が実施できると考えています。

Q 7 限られた授業時間の中で思い切った手立てを講じる時間の確保が難しい。また、何を実施したらよいか分からない。

A. すでに授業の中で活用している教材や実施している手法の効果について、授業開発アンケートを用いてその効果を確認することもできると思います。生徒にアンケートを実施してみると意外に、何のためにこの教材や手法を用いているのかが生徒に伝わっていないかもしれません。例えば多くの教科で生徒に対して実施している宿題についても、その効果を確認する必要があるかもしれません。何か新しい複雑なものでもなくとも授業改善だと考えています。

Q 8 校内の授業参観週間を設けて参観を可能にしたり、教科から数名研究授業を行うようにした方がよいのでは。

A. この授業開発アンケートを実施する以前はそのような方法をとっていましたが、あまり効果的とは言えませんでした。その課題を受けて全職員で手立てを共有し、蓄積していける、また時間的にも現実的にも効果的に実施できる手法に変更しています。ただ、Q 2 の回答のように先生方に合ったやり方で授業改善を実施してください。

Q 9 ・自身の授業を観に来てもらうよう直接依頼をして、授業を観てもらいフィードバックをもらうタイミングを設けることを義務づけるのはどうか。

・時期を固定し、教員みんなで強制的に取り組ませ、それに対する結果を、チームで報告書にまとめ、教員に配布することをしてみてもどうか。

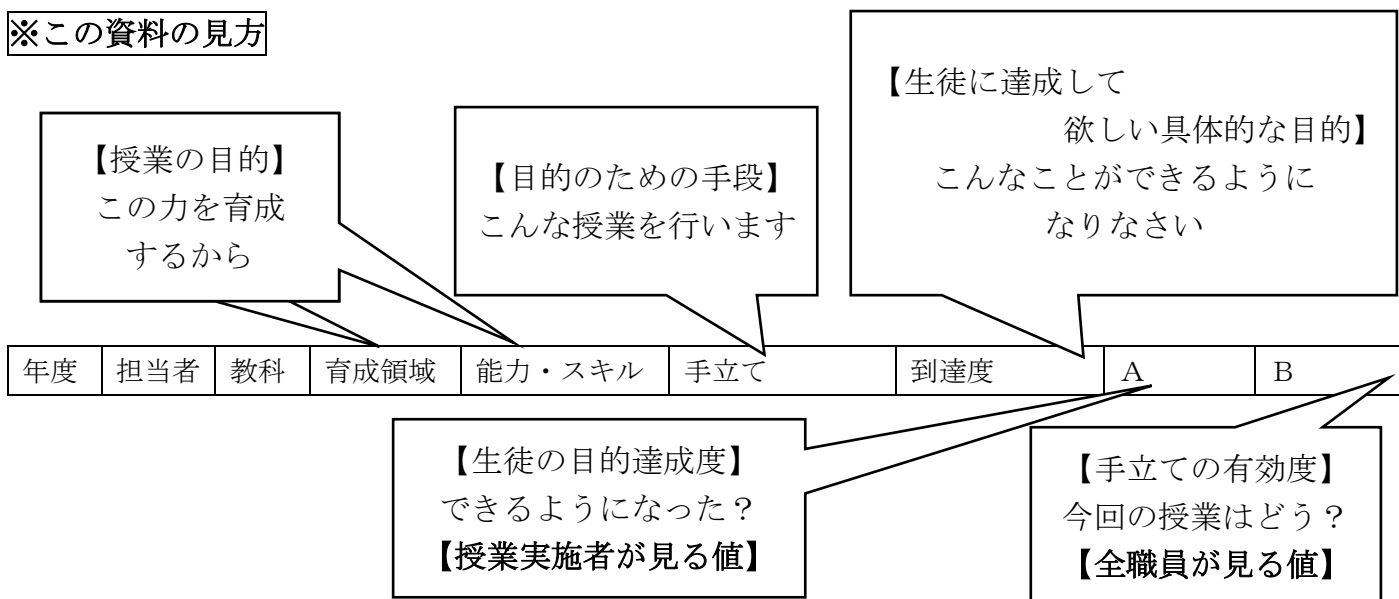
・育成する資質・能力別に教員が分かれて1年間かけて授業改善に取り組んではどうか。

・単刀直入に生徒に授業について聞く（無記名アンケート）機会が取り入れてはどうか。

A. ご意見ありがとうございます。今後の授業改善の手法を発展させる際に参考します。

3. 過去の授業開発アンケート実施結果

※この資料の見方



年度	実施者	教科	育成領域	能力スキル	手立て	Aの質問事項	A	B
H29	松田由紀夫	数学	①基礎知識	基礎知識	数列の基本的な公式を繰り返し確認し使うことにより、センター試験の問題が速く、正確に解けるようにする。	基本公式が使えるようになったか	3.3	3.3
H29	宇都宮博由	数学	①基礎知識	基礎知識	小テスト等の返却時に、生徒一人ひとりに声掛けをして、励ましアドバイスすることで、今後の基礎学力習得を確かなものにする。	答案返却後、間違っていたところをやり直すことで理解につながりましたか	3.4	3.4
H29	藤本直樹	理科	①基礎知識	基礎知識	生徒が、自主的・主体的に、定着していない基礎知識の明確化を行うために、Web上の問題集を活用する。	この方法で理解が不十分な基礎知識は明確にできましたか	2.9	3.2
H29	村上滋	理科	①基礎知識	基礎知識	発生の過程の動画を視聴することと、プリントにより発生の過程を確認することを同一時間で行うことで、発生の過程に関する基礎知識の定着を図る。	発生の過程と特徴を視覚的にとらえ順序だてて考えることができる	3.6	3.8
H30	鐘ヶ江いづみ	国語	①基礎知識	基礎知識	古文における助動詞への理解(文法的意味や接続、識別の仕方など)を深めるため、教科書本文に使用されている助動詞について、グループで話し合いをさせる。	本文中の助動詞についてのグループでの話し合いを通じ、助動詞の働きや識別等への理解を深めることができたか。	3.7	3.7
H30	下村早苗	地歴公民	①基礎知識	基礎知識	発問を多く取り入れ、生徒自らが答えられる授業づくりをする。	なぜ？を自分自身で考えることができたか？	3.4	3.8
H30	長野裕二	数学	①基礎知識	基礎知識	日々の添削課題を通して、基礎知識の確認を行い、自分に足りない知識や能力に気づき、その克服のために調べて解く、粘り強い姿勢を身につける。その姿勢を授業に活かし、向上心をもって授業に臨ませる。	数学の学習習慣の確立に活かし、基礎基本の定着を図る一助となったか。	3.6	3.5
H30	柴田雅之	理科	①基礎知識	基礎知識	生物基礎全体の復習と生物用語の定着を図るために、生物用語の小テストを授業の最初の5分間を使って継続的に実施する。	目的意識をもって取組み、基礎的知識を定着させることができたか。	3.3	3.3
R01	金子将太	地歴公民	①基礎知識	基礎知識	ICT(プレゼンテーションソフト)を活用のもと、フラッシュカードを授業の導入で用いることで、基礎学力の向上を図る。	基礎知識を蓄えることができたか。	3.3	3.3

R01	坂口守人	数学	①基礎知識	基礎知識	パワーポイントを活用し、板書する時間を減らし、問題演習に取り組む時間を確保する。	自ら問題演習に取り組みことができ、周囲と確認することができた。	3.4	3.3
R01	田中直仁	数学	①基礎知識	基礎知識	公式の確認を行うために、授業開始5分間で、公式を使って解くことのできる小テストを行い、授業では例題等にその公式が使われている箇所を明確にし、覚えるだけではなく利用できる力を定着させる。	例題・練習問題において、公式を利用し解答することができたか。	3.4	3.5
R01	下村早苗	地歴公民	①基礎知識	基礎知識	2学期末に学んだことを再確認するために映像を用いながらプリントにまとめ再確認する。	鎌倉幕府の成り立ちを幕府側・朝廷側両方からの立場で再確認できたか。	3.7	3.6
H29	高倉維	理科	②幅広い基礎力	言語スキル	物理現象を一度言語に直し、その後数式で表すことで、運動を数式で表すことがより理解でき、そして表現もできるようになる	物体の運動について言葉で表すことができたか	3.5	3.8
H29	高松佑典	国語	②幅広い基礎力	言語スキル	読解した文章を図式化して他者に説明する。	文章内容を分かりやすく要約し、他者に説明できた。	2.6	3.3
H29	高嶋美里	国語	②幅広い基礎力	言語スキル	授業での発問について解答をグループで話し合い、まずは30字程度の簡潔な言葉でクラス全体で共有する。その後、同じ問題の解答を100字前後の文にまとめる作業を行い、記述力の育成を図る。	必要な文字数で必要な語を用いて記述できたか。	2.9	2.9
H30	矢山仁	国語	②幅広い基礎力	言語スキル	文章要約(文章の全体像を大きく捉える)の基盤をつかませるために、短い評論文を多読させ、内容の確認・整理を相互添削させる。	速読の繰り返しと要約、仲間との相互添削の中で、文章の概略をつかめるようになる。	3.1	3.4
H30	古賀誠人	英語	②幅広い基礎力	言語スキル	自分の意見や考えに説得力を持たせ、効果的に相手に伝える能力を養うために、英語プレゼンテーションを行う。	意見や考えを相手に伝えるための効果的な論展開や発表方法について理解することができたか。	3.2	3.4
H30	水上佐知子	英語	②幅広い基礎力	言語スキル	日本語訳を読むことによって、英文の構成を理解するのに役立つ。	日本語訳を読んだ後、英文を読むことによって文の構成がより理解できたか。	3.5	3.1
H30	長嶋優依	英語	②幅広い基礎力	言語スキル	文法指導の問題演習において、文法事項を他者に説明、解説することによって自身の文法力をより定着させる。	問題演習において、文法事項を他者に説明、解説することによって文法力がより身につきましたか。	3.1	3.1
R01	脇田夢子	国語	②幅広い基礎力	言語スキル	物語の結末のワンフレーズを抽出し、その表現についてワークシートを用いて分析することで物語全体の主題を読み取ることができる。	夢十夜の結末のワンフレーズに注目し、読み解いていくことで物語全体のテーマが理解できたか。	3.6	3.3
R01	長尾俊太郎	国語	②幅広い基礎力	言語スキル	古文の内容読解を終わった後に、文法事項を一括して学習することによって、助動詞の意味などを文脈に沿って理解できるようにするとともに、敬語を体系的に理解できるようにする。	助動詞の意味を文脈に沿って理解できるようになったか。敬語に関する知識を体系的に理解できるようになったか。	3.3	3.1
R01	長尾俊太郎	国語	②幅広い基礎力	言語スキル	生徒全員で繰り返し(五回)漢文(白文)音読をすることで白文を読めるようにする。	漢文(白文)を読めるようになったか。	3.6	3.5
R01	鐘ヶ江いづみ	国語	②幅広い基礎力	言語スキル	評論読解において、精読前にキーワードや表記の特徴を確認させることで本文全体の構成や筆者の主張をとらえさせる。	キーワード「文化相対主義」の「」の有無や本文中の意味を確認することで、本文の構成・主張の理解ができたか。	3.4	3.3
R01	中山英治	数学	②幅広い基礎力	言語スキル	和の記号「Σ」の読み方と意味を英語で学ぶ。	英語で発音することで、記号の意味を明確に理解することができたか。	3.7	3.8

R01	村上滋	理科	②幅広い基礎力	言語スキル	酵素に関する基礎実験を英語で行うことで、言語スキルを高める。実験を行う前に仮説を設定し、仮説の検証を英語、日本語で表現することで論理的に説明する能力を高める。	英語能力の向上に役立ちましたか？仮説の検証を論理的に行うことができたか。	3.1	3.2
R01	長嶋優依	英語	②幅広い基礎力	言語スキル	日常な話題やディベート形式のスピーキング活動を通して英語で会話することに慣れさせ、コミュニケーション能力とともに相手に的確に内容を伝える力を育てる。	日々のスピーキング活動を通して、相手に的確に内容を伝えることができたか。	3.2	3.3
H29	長野裕二	数学	②幅広い基礎力	数量スキル	日々の添削課題に真剣に取り組み、弱点の克服に努める。	課題に真剣に取り組み、弱点補強に努めることができたか。	3.4	3.4
H29	沖豊	数学	②幅広い基礎力	情報処理スキル	5分間テストを実施して相互で採点し合い、未解決問題について指摘し合うことによって、問題を上手く処理できるようになる。	未解決問題について、上手く処理できるようになる。	3.5	3.2
H29	西剛	数学	②幅広い基礎力	情報処理スキル	小テストをし、相互で答え合わせし、解法のポイントを確認し合う。その結果、基礎知識の確認と条件の選択を考えさせる。	解法のポイントを確認し合うことで、ポイントを理解することができたか。	3.2	3.2
H29	長嶋優依	英語	②幅広い基礎力	情報処理スキル	本文の内容に関する英語の問いに対して英語で答えることによって、本文の内容を理解する。	本文の内容に関する英問に英答することができる。	2.9	3.1
R01	古賀誠人	英語	②幅広い基礎力	情報処理スキル	教科書本文の内容理解において、ペアで英文を読みながら与えられた表や図を完成させることで、話の流れや概要を掴む力を養う。	英文全体の話の流れや内容を把握することができたか。	3.4	3.3
H30	岡松由加理	家庭科	②幅広い基礎力	実技スキル	実技における自己の課題を認識させるために、基礎縫いを学習した後、その応用として作品製作に取り組みさせる。	作品製作の手順を理解して、自己の課題を認識することができたか。	3.8	3.9
R01	村井哲也	地歴公民	②幅広い基礎力	実技スキル	近代世界システム論の理論を応用し、21世紀における世界史像の仮説を立て、それを実証的に発表・検討を加える。	中核-半周辺-周辺という近代世界システムの形成から世界の一体化を説明・表現することができたか。	3.2	3.1
H29	村井哲也	地歴公民	③探究力	課題発見能力	地理的問題を考察させながら、現代における地球的規模の環境問題の原因とこれからの課題を発見する。	地理の授業を通して、現代の環境問題を考察できたか	3.6	3.4
H30	丸山亜希子	理科	③探究力	課題発見能力	環境・エネルギー問題への危機意識をもたせるために、それらの問題について各班で調べ学習をさせ発表させる。	環境・エネルギー問題への危機意識をもった。	3.7	3.6
H30	丸山亜希子	理科	③探究力	課題発見能力	環境・エネルギー問題への危機意識をもたせるとともに、意欲的に英語表現能力を身に付けることを意識づけるため、EASの指導のもと、環境・エネルギー問題について各班で調べ学習をさせ、それを英語で発表させる。	環境・エネルギー問題への危機意識をもつとともに、今後、英語表現能力を身に付けたいと思った。	3.8	2.4
H30	西村彰	保健体育	③探究力	課題発見能力	課題研究の場を設定し、計画を明確に示すことで見通しをもって生徒が発表原稿を作成できるようにした。	課題研究発表を通して、身近な健康課題について課題を発見することができたか。	3.7	3.7
R01	安部義則	地歴公民	③探究力	課題発見能力	イマージョン授業を活用し、イギリスのEU離脱の背景から、少子高齢社会を迎えた日本の外国人受け入れの在り方について考察する。	民意は多様であること、ゆえに民主主義には時間がかかるということを理解できたか。	3.8	3.8
R01	柴田雅之	地歴公民	③探究力	課題発見能力	発酵食品を選んで、その内容について調べて発表した後、その発酵食品のもつ課題を考え解決策を検討する。	微生物がもつ能力を引出すことが人類の幸福につながることを認識できたか。	3.6	3.4

R01	吉永圭一郎	保健体育	③探究力	課題発見能力	課題研究を通じて、学んだ知識と実生活での健康課題に目を向けさせる。	自己や社会に関する健康課題に関心をもつことができたか。	3.8	3.4
R01	片村慎吾	保健体育	③探究力	課題発見能力	課題研究を通じて、学んだ知識と実生活での健康課題に目を向けさせる。	自己や社会に関する健康課題に関心をもつことができたか。	3.4	3.3
R01	片村慎吾	保健体育	③探究力	課題発見能力	課題研究を通じて、学んだ知識と実生活での健康課題に目を向けさせる。	自己や社会に関する健康課題に関心をもつことができたか。	3.4	3.1
H29	長尾俊太郎	国語	③探究力	課題解決能力	ペア活動によって他者の考えと自分の考えとを比較することで、課題を解決できるようにする	ペア活動によって、他者の考えを参照することで課題を解決できたか	3.3	3.3
H29	新開三重子	家庭科	③探究力	課題解決能力	グループ学習・作業によって他者を観察しながら作業を進めることで、自己の課題を意識させる。また、互いに教え合える雰囲気の中で相互理解できるようにする。	グループでの教え合いや観察によって、作業に見通しを持ち、正確な作業につなげることができたか	3.6	3.5
H30	長野裕二	数学	③探究力	課題解決能力	週課題や添削課題を通して、自分に足りない知識や能力に気づき、その克服のために調べて解く、粘り強い姿勢を身につける。その姿勢を授業に活かし、向上心をもって授業に臨ませる。	数学の学習時間を増やし、調べて解く姿勢を身につけ、その姿勢を授業に活かしたか。	3.3	3.4
H30	岡松由加理	家庭科	③探究力	課題解決能力	グループで協同作業を行いながら他者を観察し作業を進めることで、自己の課題を意識させる。また、互いに教え合える雰囲気の中で相互理解できるようにする。結果を振り返り、問題点を明らかにして次の実践に生かせるようにする。	グループで協力しながら作業に見通しを持ち、正確な作業につなげることができたか。	3.7	4.0
R01	鐘ヶ江いづみ	国語	③探究力	課題解決能力	授業で学んだことをもとに、資料や書籍を活用した調べ学習・発表を行わせ、学習内容を深めさせる。	唐詩の調べ学習・発表を行うことで、唐詩の基礎基本や各詩のポイント等の理解を深めることができたか。	3.4	3.2
H29	松本邦明	国語	③探究力	論理的思考力	課題研究フレームシートを用いて文章の展開を構造化するとともに、対話的活動を取り入れながら論理性を評価(理解)させる。	文章の構成、展開、要旨を的確にとらえ、その論理性を評価(理解)することができたか。	3.4	3.4
H29	財津柗平	地歴公民	③探究力	論理的思考力	御成敗式目とその成立過程についての史料を読解することで、その内容と歴史的意義を考える。	史料を基に、御成敗式目の内容と意義を理解できたか。	3.1	2.8
H29	神崎かおる	数学	③探究力	論理的思考力	グループ学習によって互いの理解度を確認するとともに、自分の考えを相手に伝えることを通して相互の理解度を高める。	グループ学習によって自分の考えを論理的に相手に伝えることができたか	3.0	3.5
H29	河内和美	数学	③探究力	論理的思考力	豆テストで確認した知識をもとに板書した節末問題の解説を生徒自身が行う。	解説をしたり、生徒の解説を積極的に聞いたりすることが、理解につながったか。	3.3	3.0
H29	草野知一郎	理科	③探究力	論理的思考力	これまで登って来た階段を振り返りながら次の一段を登る、という自覚を持つ。即ち、これまでの学習活動で得た力学分野における図の描き方や公式活用法を再現することや、前時までに学んだ本単元における基礎知識の活用を試みること、という意識を持って本時の授業に臨む。	これまで登って来た階段を振り返りながら次の一段を登る、という自覚を持てたか。	3.6	3.7
H29	高倉維	理科	③探究力	論理的思考力	分野ごとに思考の過程を文字におこして表現し、それを他と見比べることで、論理的に問題を解いていく思考力を育成する。	物理現象に対してどのように考えていくのか順序だてて思考することができる。	2.4	3.3

H29	西村彰	保健体育	③探究力	論理的思考力	課題研究を通し、実生活の中で感じる身近な健康課題に気付かせる。	課題研究を通し、自己の健康課題に気づくことができる	3.5	3.2
H29	高木菜子	英語	③探究力	論理的思考力	ある社会問題について肯定側と否定側に分かれて討論をし、論理的に相手を説得させる力を育成する。	相手の意見をよく聴いた上で、自分の意見を論理的に相手に伝えることができたか。	2.9	3.1
H30	高松佑典	国語	③探究力	論理的思考力	本文と題材となった文章とを読み比べて、共通点と相違点を整理する。	複数の文章の比較から、共通点や違いを見つけ、作品のテーマを理解できたか。	3.3	3.6
H29	今畑幹子	英語	③探究力	総合的表現力	グループで教科書の内容を自主的に調べ、その内容を英語でプレゼンテーションする。	自分たちで内容を調べ、その内容を英語で表現する	3.4	3.0
H30	財津柁平	地歴公民	③探究力	論理的思考力	身近なモノの歴史について調査、発表することにより、それらに対する興味関心を高めるとともに、質疑応答を通じて歴史的思考力の涵養や深い学びを導く。	調査、発表を通じて、歴史的に物事を考えることができたか。	3.4	3.5
H30	神崎かおる	数学	③探究力	論理的思考力	グループ学習によって互いの理解度を確認するとともに、自分の考えを相手に伝えることを通して相互の理解度を高める。	グループ学習によって自分の考えを論理的に相手に伝えることができたか。	3.6	3.8
H30	草野知一郎	理科	③探究力	論理的思考力	これまでに得た力学の原理や法則と、その考え方や論理の組み立て方を振り返りながら次の単元に進む、という自覚を持つ。即ち、これまでに学んできた力学分野における基礎知識の活用を試みること、習慣として身につけた図の描き方や公式活用法を再現すること、という意識を持って本時の授業に臨む。	原理や法則と、その論理的組み立てを振り返り次に進む、という自覚を持てたか。	3.2	3.2
H30	高倉維	理科	③探究力	論理的思考力	問題演習の際に思考の始まりと終わりまでを、文字または数式を使ってまとめ、教員も含む他の人の思考のまとめと、自分の思考を比べることで、答えまでの道のりを視覚的に考えることができる。	答えまでの道のりを文字・数式でまとめ、それに沿って考えることができたか。	3.3	3.5
H30	村上滋	理科	③探究力	論理的思考力	血液の凝集に関する基本事項を学習し、それをういてヒトのABO式血液型において血液型決定の方法を考え発表することで、論理的思考力を高める。	自分自身で決定の方法を考え論理的に説明するために必要なことを考えることができた。	3.1	3.5
R01	金子将太	地歴公民	③探究力	論理的思考力	OPP(One Paper Portfolio)シートを活用し、授業の要点を見極める力の向上や単元に対する考察の深まりを高める。	単元全体の流れを把握することはできたか。	3.2	3.1
R01	神崎かおる	数学	③探究力	論理的思考力	問題文を板書し、問題文の中から解答を導くためのキーワードや条件を答えさせる。既習の公式と結び付けて解答の方針を立てさせ、答えさせる。	問題文の中からキーワードや条件を見つけ出し、解答の方針を立てることができたか。	3.7	3.6
R01	高倉維	理科	③探究力	論理的思考力	公式や法則の確認に演習問題を活用するのではなく、その単元についてどのように思考していくかを演習を通して理解することで、演習問題について論理的に考えていくようにする。	物理の演習問題を解く際、1学期に比べると、順序立てて考えることができたか。	3.3	3.3
R01	村上滋	理科	③探究力	論理的思考力	顕微鏡操作実験において、観察前に予想を立てその予想と結果の一致点、不一致点を根拠立てて説明することで論理的に説明する能力を育成する。	根拠立てて説明できたか。	2.8	3.1
R01	古賀誠人	英語	③探究力	論理的思考力	英語ディベートにおいて、与えられた題材に関する意見交換を行うことで、自分の考えを整理して論理的に相手に伝える力を養う。	考えに根拠を持ち、説得力のある意見を相手に伝えようとすることができたか。	3.1	3.4

H29	矢山仁	国語	③探究力	総合的表現力	小論文の表現活動において、学び合いの集団を形成し、読み手を意識したより良く伝わる表現への意識を高めるために、学習者相互の添削を行う。	小論文記述の学習において、読み手を意識して表現することができたか。	3.3	3.5
H30	松本邦明	国語	③探究力	総合的表現力	説明力養成シートを用いて、他者評価を活用しつつ、繰り返し記述することで、自己の言語構造を調整し、適切に表現する力を養う。	シートの活用によって、表現の高まりを実感できましたか。	3.6	3.6
H30	長尾俊太郎	国語	③探究力	総合的表現力	英語に翻訳するという活動を行うことで和歌に込められた作者の思いや表現の特徴を自分なりにつかもつとするため、和歌に対する深い学びを可能とする。	百人一首の和歌に込められた作者の思いや表現の特徴をつかむことができたか。	3.6	3.3
H30	村井哲也	地歴公民	③探究力	総合的表現力	発表シートを用いて、他者の発表と自己評価をすることにより、アクティブラーニングの様式で表現する力を養う。	シートの活用によって、表現ができるようになったか。	3.3	3.6
R01	村井哲也	地歴公民	③探究力	総合的表現力	英語イマージョン授業を活用し、第二次世界大戦におけるイギリス外交の歴史というテーマについて検討・発表を行う。	英語イマージョン授業における世界史の学習内容を比較検討し、表現することができたか。	3.5	3.5
R01	柴田雅之	理科	③探究力	総合的表現力	教科内容に関連する新書を各自で選び、レポートにまとめたものを発表・意見交換する。	本の内容を分かり易く伝え、皆の興味・関心を引き出したか。	3.0	3.1
R01	高木菜子	英語	③探究力	総合的表現力	本文の内容のキーワードとイメージをスクリーンに提示し、制限時間を設けて、ペアでリテリングと意見陳述を行う。	ペアの相手に本文の要旨と自分の意見や感想を伝えることができたか。	3.1	3.2
H30	柴田雅之	理科	④人間力	感受性	自分自身が生物的存在であることを自覚したり、生命の神秘性に触れたりすることができるような実験を計画・実施する。	自分自身が生物的存在であると自覚し、生命の神秘に畏敬の念を抱くことができたか。	3.4	3.4
H30	西村彰	保健体育	④人間力	コミュニケーション力	発表後に時間を与え、質問を考えさせた。また、相互評価も行い、お互いの発表に対して質問を考えながら注意深く聞くように指導した。	甲斐田井研究を通して、お互いに協力して調べたり、質問して意見交換ができたか。	3.5	3.5
H30	古賀誠人	英語	④人間力	コミュニケーション力	1分間スピーチ及び90秒トークを毎時間の初めに実施することで、自発的な英語のやり取りを持続させる能力の育成を目指す。	英語のやり取りを持続させるための表現や工夫を理解し、実際に使用することができたか。	3.1	3.3
H30	大橋郁弥	英語	④人間力	コミュニケーション力	各パートの終了時に発表活動を、フォーマットを与えながら行うことで、生徒が自らの意見を相手に積極的に発信する能力を養う。	発表活動を通して積極的に英語で表現することができたか。	3.3	3.3
R01	深堀正巳	国語	④人間力	コミュニケーション力	模擬面接を受け、他人の模擬面接を評価することで、自己について効果的に表現する方法を身に付ける。	自己表現する力を身に付けることができたか。	3.1	3.7
R01	高木菜子	英語	④人間力	コミュニケーション力	本文の問題演習において、グループで教え合う時間を設け、問題を説明する機会を与える。	グループで教え合いをすることで、内容の理解を深めることができたか。	3.4	3.2
H29	安部義則	地歴公民	④人間力	積極性	時事的話題等を協議しながら、自由及び権利の意義について考察する。	知る権利と情報公開の必要性について理解できたか。	3.5	3.7
H30	柴田良子	英語	④人間力	積極性	各授業で、新出単語や文法を活用する言語使用場面をできるだけ多く設定し、ペアワークまたはグループワーク時に生徒がそれらを工夫しながら使用し、自分の気持ちを相手に伝える機会を設ける。	ペアワーク等の活動の際、相手の意見に質問したり、自分の意見を進んで伝えることはできたか。	2.9	3.2

H30	大橋郁弥	英語	④人間力	積極性	パートのリテリング活動を、図やイラストを用いて視覚化し、さらに段階を追って発表活動を行うことで内容を理解しながら伝達できるようにする。 発表活動を班活動から全体活動にすることで、抵抗感を少なくして情報を相手に伝達できるようにする。	相手(班員・クラス)に本文の内容を積極的に伝えることができたか。	3.4	3.5
H30	高松佑典	国語	⑤批判的思考力	批判的思考力	登場人物の関係性を整理し、行動や心情の根拠を、説明する。	説明をすることによって、人物関係を意識することができたか。	3.5	3.5
H30	村井哲也	地歴公民	⑤批判的思考力	批判的思考力	歴史問題に関するディベートを行い、他者の意見を傾聴し、同時に自己の意見を主張できる力を養う。	他者と自己の意見の相違を認識した上で、自己の意見を論理的に主張できたか。	3.2	3.4
H30	上野久美子	地歴公民	⑤批判的思考力	批判的思考力	2班に分かれてディベートを行い、他者の意見を聞くことで、自分の意見との相違点を明確にさせて、相手を説得する力を養う。	相手の意見を踏まえた上で、自分の意見の正当性を主張し、説得できたか。	3.2	3.3
H30	安部義則	地歴公民	⑤批判的思考力	批判的思考力	「面倒臭いがない社会」(新聞記事:評論)を活用し、社会にある面倒臭いものの意味を再吟味する(個人・班・全体)	民主主義には時間がかかるということを理解できたか(面倒臭いものの必要性・大切さを理解できたか)	3.4	3.4
H30	沖豊	数学	⑤批判的思考力	批判的思考力	生徒に演習問題を解かせ、それを板書させて説明させることによって、より深い理解と、自分の考えを分かりやすく相手に伝える能力や互いが他者の考えを批判的に聞く能力を育成する。	自分の考えを分かりやすく相手に伝えることや、他者の考えを批判的に聞くことができたか。	3.2	3.4
H30	河内和美	数学	⑤批判的思考力	批判的思考力	学習した内容を復習するために、生徒が節末問題を板書したものを解説する。	生徒の解説を聞いて、その解説が正しいか間違っているか判断することができたか。	2.9	3.4
H30	河内和美	数学	⑤批判的思考力	批判的思考力	自分で板書した問題を解説する。 わからないところを生徒相互で質問する。	解説を準備することで理解が深まったか。	3.8	3.6
R01	高松佑典	国語	⑤批判的思考力	批判的思考力	登場人物の心情を、主人公の視点から離れて、客観的に分析する。	主人公視点を離れて心情をとらえることができたか。	3.3	3.5
R01	安部義則	地歴公民	⑤批判的思考力	批判的思考力	「面倒臭いがない社会」(新聞記事)を活用し、社会にある面倒臭いものの意味を再吟味する	民主主義には時間がかかることの意味を理解できたか。	3.3	3.5
R01	柴田良子	英語	⑤批判的思考力	批判的思考力	英文を所定の時間内に読み、その英文に関する英問英答や選択問題を解くことで、内容理解を深めるとともに、ペアワークを通して、様々な観点から内容を考察する。	最後まであきらめずに本文を読み、設問に答えるよう努力し、ペアと答えを根拠を示しながら共有できたか。	3.1	3.4
H30	長尾俊太郎	国語	⑥創造的思考力	創造的思考力	EASの先生から和歌を英語に翻訳する際の留意点や和歌を英語に翻訳する際に便利な英語のフレーズを教えてもらう。	百人一首の和歌に込められた作者の思いや表現の特徴をEASの先生に伝えるように英語に翻訳することができたか。	3.0	3.3
H30	中山英治	数学	⑥創造的思考力	創造的思考力	発問し、答える生徒を指名する前に、その発問の解答について周囲の生徒と協議させる(1学期より、日常の授業の中でほぼ毎回実施)。	初めて取り組む内容でも周囲の生徒に話すことで新しい考えを思いつくことができたか。	3.3	3.7
H30	高倉維	理科	⑥創造的思考力	創造的思考力	物理のシュミレーションソフトを用いて、力学分野の問題をアニメーションにして、問題演習の最初にその動画を見せることで、物体の複雑な運動も頭の中で造りだせるようにする。	物体の運動を頭でイメージでき、その運動を数式で表すことができたか。	3.4	3.7

H30	村上滋	理科	⑥創造的思考力	創造的思考力	まず酵素に関する基礎実験を行い酵素に関する基礎知識の確認を行う。その後、酵素に処理(すりつぶす)を加えて実験する。その際、仮説を立て実験を行い、結果を検証・考察することで創造的思考力の育成を目指す。(仮説と結果のずれから考えさせる)	設定した仮説を結果から検証することができたか。	3.4	3.7
H30	長嶋優依	英語	⑥創造的思考力	創造的思考力	長文読解において学んだ文法構文を実際に日常的な英会話の中で使うことによって、定着させる。	長文読解において学んだ文法構文を実際に日常的な英会話の中で使うことはできたか。	2.9	3.3
R01	中山英治	数学	⑥創造的思考力	創造的思考力	例題の解説を省き、自力で練習問題に取り組む時間を授業中にできるだけ多く確保する。	例題を自力で理解しようとしたり、練習問題を自力で解こうとしたか。	3.6	3.5
H29	吉永圭一郎	保健体育	⑦協働的思考力	協働的思考力	選択制授業においてグループの課題が何なのかリーダーを中心に話し合う時間を与え、グループ毎に考えさせた。	リーダーを中心に、グループの課題がどのような技能なのか気づくことができたか。	3.2	3.1
H29	甲斐義啓	保健体育	⑦協働的思考力	協働的思考力	決められた範囲内で、パスやフェイントを用いながらチームでボールをキープするための方法に気付かせる。	ボールをキープするための方法や必要な技能に気付くことができたか。	3.3	3.2
H30	中山英治	数学	⑦協働的思考力	協働的思考力	グループを作り、互いに教えあいながら問題演習を進める(2学期中間考査、および期末考査前の合計10時間程度)。	分からない問題があっても、周りの生徒と協力して理解することができた。	3.6	3.5
H30	中山英治	数学	⑦協働的思考力	協働的思考力	発問し、答える生徒を指名する前に、その発問の解答について周囲の生徒と協議させる(1学期より、日常の授業の中でほぼ毎回実施)。	分からない内容であっても、周りの生徒と協力して理解することができたか。	3.5	3.7
H30	藤本直樹	理科	⑦協働的思考力	協働的思考力	問題解決の際に、状況に応じた小集団で互いの考えを比較することで、最適な解決策を導き出す力を身に付ける。	他の人と話し合い、問題を理解することができたか。	3.3	3.3
H30	高木菜子	英語	⑦協働的思考力	協働的思考力	英文の英問英答、True or False、要約をグループに分かれて話し合いながら行い、他のグループと競い合う。	日本語訳なしで、英文の内容を理解することができたか。	2.9	3.1

